



平成22年4月1日
内閣府沖縄振興局

内閣府において予算計上を行う公共事業評価の結果について

1. 内閣府は、沖縄振興開発事業について、
 - ① 事業採択後一定期間経過した公共事業についての再評価（別紙1）
 - ② 新規公共事業の採択時評価（別紙2）を実施した。

2. 再評価対象事業 8件（直轄4件、補助4件）中
 - 事業を継続するもの 7件
 - 事業を見直すもの 1件
 - 事業を中止するもの 0件

3. 新規事業 3件（補助事業）

問い合わせ先：

○総括的な事項について

沖縄振興局総務課課長補佐 村田 崇

電話：（代表）5253-2111（内線）44407（直通）3581-9751

沖縄振興局総務課調整係長 末崎 浩一郎

電話：（代表）5253-2111（内線）44411（直通）3581-9751

○道路について

沖縄振興局参事官補佐（振興第一担当） 向井地 博史

電話：（代表）5253-2111（内線）44431（直通）3581-1993

沖縄振興局参事官（振興第一担当）付主査 白土 晶通

電話：（代表）5253-2111（内線）44435（直通）3581-1993

○農業農村整備について

沖縄振興局参事官補佐（振興第二担当） 奥平 雅彦

電話：（代表）5253-2111（内線）44441（直通）3581-1588

○水道について

沖縄振興局総務課事業振興室係長 田上 隆

電話：（代表）5253-2111（内線）44421（直通）3581-1365

再評価を実施した事業

1 直轄事業(沖縄総合事務局) 4件
(道路) 4件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	一般国道329号 ^{ヨナバル} 与那原バイパス ^{ニシハラチヨウ ヨナバルチヨウ ハエバルチヨウ} (西原町、与那原町、南風原町)	平成4年度 470億円	国道329号は、沖縄本島の太平洋側と東シナ海側を結ぶ大動脈であり本島の南部地域と那覇市を結ぶ主要幹線道路である。 このうち与那原バイパスは、通過交通と域内交通が輻輳し、特に朝夕の交通混雑が著しい西原町～与那原町間の交通混雑緩和、那覇空港自動車道と一体となった広域ネットワークの形成によるマリンタウンプロジェクト等関連事業の支援及び地域活性化に寄与する道路事業である。	平成17年に一部区間(0.5km)2車線暫定供用。用地買収及び工事を進め、早期供用を目指す。	西原町～与那原町間の交通混雑緩和、那覇空港自動車道と一体となった広域ネットワーク形成によるマリンタウンプロジェクト等関連事業の支援及び地域活性化に寄与する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
2	一般国道329号 ^{ハエバル} 南風原バイパス ^{ハエバルチヨウ ナハシ} (南風原町、那覇市)	平成7年度 450億円	国道329号は、沖縄本島の太平洋側と東シナ海側を結ぶ大動脈であり、本島の南部地域と那覇市を結ぶ主要幹線道路である。 このうち南風原バイパスは、通過交通と域内交通が輻輳し、特に朝夕の交通混雑が著しい南風原町～那覇市上間間の交通混雑緩和、那覇空港自動車道と一体となった広域ネットワークの形成による地域活性化に寄与する道路事業である。	平成16年、平成17年に一部区間(0.5km)2車線暫定供用。用地買収及び工事を進め、早期供用を目指す。	南風原町～那覇市間の交通混雑緩和、那覇空港自動車道と一体となった広域ネットワーク形成による地域活性化に寄与する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
3	一般国道331号 ^{ナカヤマ} 中山改良 ^{ナンジョウシ} (南城市)	平2年度 82億円	一般国道331号は、沖縄本島島尻地域を連結し県都那覇へ至る延長約50kmの主要幹線道路である。 このうち中山改良事業は、一般国道331号の線形改良を行うもので、産業・観光の発展及び交通安全の確保等を目的とした道路事業である。	用地買収及び地元協議を進め、工事の進捗を図る。	沖縄本島南部地域の産業・観光の発展及び交通安全の確保等に寄与する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
4	一般国道58号 ^{オンナ} 恩納南バイパス ^{オンナン} (恩納村)	平成2年度 360億円	国道58号は、沖縄本島西側を南北に走る大動脈で、本島中南部の人口集中地域と北部の観光・リゾート地域及び農山村地域を結ぶ主要幹線道路である。 このうち恩納南バイパスは、美しい海岸線が続き、リゾートホテル、ビーチなどが集中している本県有数のリゾート地である恩納村内の観光シーズンにおける交通渋滞緩和、国道58号の交通安全確保及び沿道環境の改善、観光産業の支援に大きく寄与する道路である。	平成21年11月1日に一部区間暫定2車線で開通し、部分暫定開通の一定の効果も発揮されている。今後は早期事業効果発現を図るため、全線2車線暫定供用に向けて、鋭意事業の進捗を図る。	恩納村内の観光シーズンにおける交通渋滞緩和、交通安全確保及び沿道環境の改善、観光産業の支援に大きく寄与する事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。

2 補助事業(沖縄県又は市町村) 4件

(水道) 4件

番号	事業名	採択年度 総事業費	事業概要	今後の対応	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	<small>ナハ</small> 那覇市水道施設整備事業 <small>ナハン</small> (那覇市) <small>ナハン</small> 【那覇市事業】	平成3年度 209億円	水道水の安定供給を図るため、老朽管の更新や区画整理事業等に伴い増加する水需要に対応する配水管等を整備する事業である。	真和志地区等の配水管整備等を促進し、平成23年度の事業完了を図る。	水道水の安定供給を図るため、地域の水需要の増加に対応した管路の整備や老朽施設の更新等を行う事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
2	<small>ナンジョウ</small> 南城市水道施設整備事業 <small>ナンジョウ</small> (南城市) <small>ナンジョウ</small> 【南城市事業】	平成4年度 20億円	水道水の安定供給を図るため、老朽管の更新や区画整理事業等に伴い増加する水需要に対応する配水管等を整備する事業である。	佐敷地区の配水管整備を促進し、平成23年度の事業完了を図る。	水道水の安定供給を図るため、地域の水需要の増加に対応した管路の整備や老朽施設の更新等を行う事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。
3	北西部ダム事業 (沖縄県) 【沖縄県事業】	平成5年度 948億円	特定多目的ダムとして建設される大保ダム及び奥間ダム(調整水路を含む。)に県が利水者として参画し、新たに111,000m ³ /日の安定した水源の確保を図る事業。	以下のとおり、事業の見直しを行う。 (1)県は、水道用水供給事業(利水者)として参画している奥間ダム計画から撤退する。 (2)大保ダムの完成をもって、水道用水供給事業者(利水者)の事業である「北西部ダム事業」を完了とする。	生活用水の需要は、今後も増加するが、将来の需要の動向を踏まえ、県が利水者として奥間ダム計画から撤退し、大保ダムの完成をもって、北西部ダム事業を完了とする見直しは、妥当である。
4	水道用水供給施設整備事業 (沖縄県) 【沖縄県事業】	平成11年度 2,742億円	沖縄本島及び伊江島の27市町村のうち、23市町村に対する水道用水を供給するために必要となる施設を整備する事業。	水道用水供給施設整備事業について、事業を継続する。特に平成23年度の新石川浄水場供用開始に向けて整備を推進する。	沖縄県内の受水事業体に対して、水道水の安定供給を図るため、水需要の増加や水源水質の悪化等に対応した水道施設の整備を行う事業であり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を継続することは適当である。

新規事業採択時評価

○補助事業(沖縄県) 3件

(農業農村整備) 3件

番号	事業名	総事業費	事業概要	沖縄振興計画推進の視点からの評価
1	かんがい排水事業 <small>ニシニシ</small> 西西1期地区 (宮古島市)	15億円	西西1期地区は、宮古島市旧城辺町西部に位置し、基幹作物であるさとうきび作を中心に、葉たばこ、牧草等の栽培を主体とした農業が展開されている。 しかし、琉球石灰岩を母材とした島尻マーヅ土壌地帯は保水力に乏しく恒常的な干ばつ被害を受け、また、ほ場の区画も不整形なため、農業生産性がかなり低い状況にあることから、かんがい施設整備及び区画整理を行い、付加価値の高い作物への転換を図り、農業所得の向上と農家経営の安定を図るものである。(参考:費用便益比2.19)	本事業は、宮古島市においてかんがい施設の整備と区画整理の実施により、農業所得の向上と農家経営の安定が図られるものであり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を新規採択することは適当である。
2	かんがい排水事業 <small>マツバラミナミ</small> 松原南地区 (宮古島市)	17億円	松原南地区は、宮古島の西部に位置し、基幹作物であるさとうきび作を中心に葉たばこ、かぼちゃ等の栽培を主体とした農業が展開されている。 しかし、ほ場の区画は不整形であり、また、恒常的な干ばつ被害を受け、農業生産性がかなり低い状況にあることから、かんがい施設整備及び区画整理を行い、付加価値の高い作物への転換を図り、効率的、安定的な農業経営の安定を図るものである。(参考:費用便益比2.08)	本事業は、宮古島市においてかんがい施設の整備と区画整理の実施により、農業所得の向上と農家経営の安定が図られるものであり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を新規採択することは適当である。
3	かんがい排水事業 <small>ムラコシ</small> 村越1期地区 (宮古島市)	17億円	村越1期地区は、宮古島東部に位置し、基幹作物であるさとうきびを主体とした営農を行っている。 しかし、琉球石灰岩を母材とした島尻マーヅ土壌地帯は保水力に乏しく恒常的な干ばつ被害を受け、また、ほ場の区画も不整形なため、農業生産性がかなり低い状況にあることから、かんがい施設整備及び区画整理を行うことにより営農労力を軽減し、農業所得の向上と農業経営の安定を図るものである。(参考:費用便益比1.83)	本事業は、宮古島市においてかんがい施設の整備と区画整理の実施により、農業所得の向上と農家経営の安定が図られるものであり、沖縄振興計画の着実な推進を図るために、本事業を新規採択することは適当である。